

J A S 制度のあり方検討会 中間取りまとめ のポイント

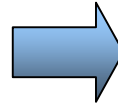
～ 食の安全・安心に資する 21 世紀の J A S 制度を目指して～

- 現 状 -

- 展開方向 -

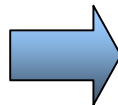
1 . J A S 規格（任意）のあり方 ～消費者ニーズに対応した J A S 規格の制定～

- J A S 規格・マークが示す内容が不明確



- 個々の J A S 規格について、製品
の特色を明確化した「特色規格」か、
取引の合理化等の観点から標準と
なる定義・品質を示した「標準規格」
かを明らかにした上で、制定・見直し

- J A S 規格の内容は、「成分」や「生
産」に関する基準に限定
- 「表示」のみに関する基準を内容と
した J A S 規格は認められない



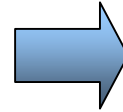
- 「生産」のみならず「流通」に関す
る基準も J A S 規格に取り込む
- 表示内容が正しいことを認証でき
るよう「表示」のみに関する基準を J A
S 規格に取り込む

- 現 状 -

- 展開方向 -

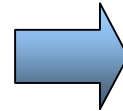
2 . J A S 規格の認証のあり方 ～行政改革の流れに対応した信頼される認証制度の整備～

○ 登録認定機関が、大臣の代行として製造業者等を認定



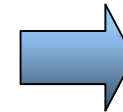
○ 大臣の代行ではない「民間機関」として製品の J A S 規格適合性を認証

○ 登録認定機関に対する国の関与は事前チェックが中心（事前の厳格な認可による違反防止）



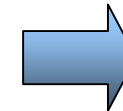
○ 事後チェック体制を整備（事前の届出＋違反時における厳格な事後的処分）

○ 認定を受けない一般事業者の製品の格付も製品検査のみで可能



○ 事業者認定を通じた製品認証制度に原則として一本化し、問題発生時に事業者の責任を問いうる仕組みへ

○ 外国の認定機関の登録は、当該国と我が国との間の制度同等性の合意が要件



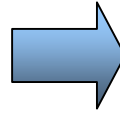
○ 国際基準により登録審査を行い、制度同等性の要件は廃止

- 現 状 -

- 展開方向 -

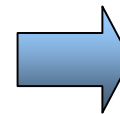
3 . 品質表示基準（義務）のあり方 ～わかりやすく信頼される表示制度の充実～

- 品目横断的な表示ルールに加え、特定の食品のみ厳格な名称規制を含む個別の表示ルールが存在



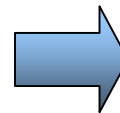
- 個別品目の表示ルールは、品目横断的な表示ルールに整理統合を検討
- 必要な場合には個別品目の厳格な名称規制に代え、「標準」としてのJAS規格で名称を規定

- 食品に物理的に貼付する文字としての表示が規制の中心



- インターネット販売等に対応した新たな表示形態も規制の対象に

- 表示の根拠書類保持は不要



- 表示の根拠書類保持を品質表示基準により義務付け